

氏名 中田吉光 (Nakata Yoshimitsu)

所属 総合経営学部 経営学科

職種 教授

生年月日 1966年1月6日生

[履 歴]

[学 歴]

1988年3月 国士舘大学体育学部体育学科卒業

[学 位]

体育学士

[職 歴]

1988年4月～1989年3月 大阪府大阪市立生野工業高等学校 非常勤講師

1989年4月～1990年3月 香川県坂出市立坂出中学校 常勤講師

1990年4月～2002年3月 香川県立坂出工業高等学校 教諭

2002年4月～2003年3月 青森山田学園本部 事務

2003年4月～2004年3月 青森短期大学 助手

2004年4月～2009年3月 青森短期大学 講師

2009年4月～2012年3月 青森短期大学 准教授

2012年4月～2015年3月 青森大学 准教授

2015年4月～ 青森大学 教授

[受 賞]

2002～2019年 優秀監督賞（青森 or 東北体操協会）

2016年 功労賞（青森県体操協会）

2018年 功労賞（東北体操協会）

2022年 功労賞（青森県階上町）

[所属学会]

（一社）日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ心理学会

[教育活動]

[担当科目]

総合経営学部：スポーツ心理学、救急法、体育実習（器械運動）、体育実習（体力づくり運動）、体育方法学（柔道）、体育実技A、体育実技B、

[卒業研究指導]

スポーツコースの学生らしく、自分の競技経験等からテーマを選び、自分にしか書けない（調査や統計）卒論に取り組むよう指導している。そこで、週一回の授業では、学生一人ずつが調査・研究の進行状況を発表したり、周りからのアドバイスを受けたり協力したりなどを行っている。それを通して、個々の学生の発言力が高

まり、コミュニケーション能力も向上している。

[ゼミ指導]

2004年度 7名、 2005年度 8名、 2006年度 12名、
2007年度 9名、 2008年度 3名、 2009年度 6名、
2010年度 4名、 2011年度 2名、 2012年度 6名、

[教育指導に関する特記事項]

1. スポーツ心理学における実践（2006～現在）

授業導入では、学生が今旬のスポーツニュース（インターネット・新聞）を取り上げ、それぞれ監督や選手の立場になり、戦略や心理状態などを皆でブレインストーミングを行う。内容として、スポーツに関わる事象や問題を心理学の立場から考察していく、いわゆるスポーツにおける精神面の重要性が指摘されています。スポーツ心理学が個人の人格形成に及ぼす効果や、性格・環境などによってパフォーマンスに大きく影響することを理解していきます。また、内容によっては個別に対応している。

2. 体育実習（器械体操）における実践（2009～現在）

技を習得するために必要な能力を身に付けるとともに、段階的に自分の運動課題にしっかりと取り組めるように指導している。また、その解決にあたっては自らの考えや工夫が感じられるような、課題達成（できばえ）楽しさ（喜び）を味わうことができるようにさせている。

内容としては、指導方法は勿論のこと、特に補助方法を習得することで仲間と協力して安全で計画的に活動できるようにしている。

3. 救急法における実践（2006～現在）

日本赤十字社青森県支部主催救急法救急員養成講習会とタイアップし行っている。一般の受講生も参加する場合もあり、資格取得（救急法救急員）を重視している。必要であれば補講にも対処している。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 男子新体操（徒手運動）について
2. 転回系（マット運動）の指導及び補助について

[著書、論文、総説]

1. 「男子新体操」
ー選手とコーチの独習マニュアルー （アイオーエム社、2009.2.2）
2. 「青森大学新体操部の実情」（学術研究紀要 第36巻-第3号、2014.2）
3. 公益財団法人 日本体操協会 新体操男子規則 2015年度版・2022年度版

[学会発表]

「第 16 回日本レーザー・スポーツ医科学学会」においてシンポジウム：運動器疼痛対策と運動連鎖を応用としたスポーツ外傷・傷害からの復帰、予防への取り組み、男子新体操の現状を発表する（於：慶應義塾大学日吉キャンパススポーツ棟）スポーツ・レーザー医科学学会（2012. 12. 1）

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 全国指導者・選手合同合宿（2009～2023）

2 日間の合同合宿（ジュニア・中学・高校・大学）を行い、全国からの指導者（特に講習）・選手（特に実技）を対象に主催者として開催した。現在では東北・関東・関西・九州の 4 ブロックに分かれ参加者は 600 名を超えている。（コロナ化で 3 年間中止）

2. 男子新体操公認審判員、男子新体操委員会専門アドバイザー（2015. 4～現在）、元男子新体操委員会委員長（2009～2014. 10）

各種全国大会において（インターハイ・全国高校選抜・全日本ユースチャンピオンシップ・全日本ジュニア・全日本社会人等）上級審判及び主任審判員として重責を担い業務にあたっている。

第 37・39 回全日本ジュニア新体操選手権大会（高崎市）において審判長として審判業務の最高責任者を担った。（2019. 11. 14～11. 17、2021. 11. 11～14）

例年 5 月（最近はコロナ関係のため中止）には県内審判員養成講習会を行っている。

3. 救急法救急員養成講習会（2022. 2. 14～16、2022. 8. 8～10、2023. 8. 16～18）

2006 年より本学において日本赤十字社青森県支部と合同で開催した。

更に 2023 年に救急法指導員の資格を取得し、学内外（6/17 青森中央学院大学・10/18 薬学部）において 3 回講義・実技指導を行い資格付与の採点業務も行った。

4. 教員免許状更新講習（2013. 9. 7、2014. 8. 5、2017. 7. 26）

本学において 3 回、教員免許状更新講習（マット運動並びに表現）を開催した。

5. 講演等

2019（令和元）年度

・青森県消費生活大学講座を県民ホールにおいて講師（講演）を務める。

（2019. 7. 26）

・青森第一高等養護学校の生徒職員が新体操部の練習見学及び体験を行い、最後には質問等の交流を行った。（2019. 9. 10）

・第 15 回医療法人雄心会発表会（函館国際ホテル）において「年輪～築きあげた確かなもの～」のテーマのもと講演を行う。（2019. 10. 6）

・青森県立青森第二養護学校の中学部 45 名（12/3・5）、高等部 65 名（12/10・19）に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。

2020（令和 2）年度

- ・株式会社日本医療企画『月刊 老施協』の取材を受け、「チームのチカラ」と題し、2021年1月号に掲載された。
- ・青森県立青森第二養護学校の高等部 61名（12/3・17）、中学部 47名（12/4・18）に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。中等部指導の後には小学部児童を向かい入れ演技鑑賞を行った。

2021（令和3）年度

- ・青森県立青森第二養護学校の高等部（12/10・17）、中学部（12/13・20）に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。
- ・第56回全国高等学校体育連盟研究大会において指導助言者として参加（令4.1.12～14）。発表者に対する助言や総括など文字起こした内容が報告書として冊子に掲載。

2022（令和4）年度

- ・青森県立青森第二養護学校の高等部 50名（12/5・15）、中学部 60名（12/2・9）に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。
- ・青森市内の小中学校延べ19校におけるダンスワークショップ（スポーツコミッション青森主催）に本学新体操部員と運動補助を行う。（6/27～7/15）

2023（令和5）年度

- ・青森県立青森第二養護学校の高等部 58名（12/4・11）、中学部 53名（12/1・15）に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。
- ・3年目最後になる青森市内の小中学校（19校）でのダンスワークショップ（スポーツコミッション青森主催）に本学新体操部員と運動補助を行う。（6/27～7/12）

[学内各種委員]

《学長/副学長/学監》

1. 学監

《全体①》

2. 大学運営会議

3. 質保証委員会

4. 自己点検評価・認証評価審査対策委員会

5. 学長室（副室長）

6. 予算編成準備委員会

7. 施設整備将来計画委員会

《入学者選抜・継続支援管理委員会》

8. 入学者選抜・継続支援管理委員会（委員）

9. 学生募集戦略部会（委員）

10. 離学者防止対策部会（委員長）
11. 学習支援センター部会（委員）
 ≪全体②≫
12. ハラスメント防止対策委員会
13. 個人情報保護委員会（副委員長）
14. 危機管理委員会・危機対策本部
 ≪学生支援・教学支援関連委員会≫
15. 学生委員会（委員長）
16. 青森大学学業特待制度継続審査委員会
 青森大学高等教育の修学支援新制度的確認定審査委員会
 青森大学特別奨学給付金制度審査委員会
 留学生支援会議
 ≪研究・社会連携関連委員会≫
17. 青森大学倫理委員会
 ≪青森学園本部≫
18. スポーツ連携センター（委員長）

[学外各種委員]

1. (公財) 日本体操協会 男子新体操委員会 専門アドバイザー (2015.4～現在)
 (委員会委員長 (2011.4～2014.10))
2. 全日本学生体操連盟 常任理事 (2023.4～現在)
3. 東北・北海道学生体操連盟 副会長 (2009.4～現在)
4. 青森県体操協会 副理事長 (2017.4～現在)
5. 青森県ラジオ体操連盟 理事 (2012.4～現在)
6. 青森市スポーツ推進審議会委員 (2015.4～現在)
7. 学校運営協議会委員 (青森県立青森第二養護学校) (2023.4～現在)

[課外活動]

新体操部 (監督 2002.4～2019.3、部長 2019～2022、2024)

<国内競技会>

2002～2023 全日本学生新体操選手権大会優勝 (22 連覇中)

2002～2023 全日本新体操選手権大会優勝 (18 回優勝)

<海外>

1. アジア競技大会 (2002.9)

アジア競技大会にエキジビションとして参加する。(韓国・釜山)

2. 世界選手権大会 (2003.9)

第 26 回世界新体操選手権大会 G A L A に参加する。(ハンガリー・ブダペスト)

3. 国際大会 (2003. 11、2005. 11)

男子新体操国際オープンで優勝 (2 回) する。

4. 国際活動

(1) UCLA' s National NCAA Champion (UCLA 大学サンゼルス校) のエキジビションとして参加する。(2004. 2)

(2) Unive 'Gym Gala (オランダ)・2006 Feuerwerk der Turnkunst (体操芸術の花火 in ドイツ) 2 カ国において「日本の体操」として招待される。(2006. 12. 20~2007. 1. 16)

(3) ドイツ・ニーダーザクセン州体操協会主催、ヨーロッパで最も人気のあるショー、2007 Feuerwerk der Turnkunst に 2 年連続で招待をうける。ベルリン他 16 都市 26 公演。観客動員数 10 万 5 千人に及ぶ。(2007. 12. 28~2008. 1. 18)

(4) 2011 Feuerwerk der Turnkunst に 3 度目の招待をうける。ベルリン他 23 都市 32 公演・観客 17 万人から絶賛を受ける。(2010. 12. 26~2011. 1. 25)

(5) オランダ (アムステルダム 4 公演)・ドイツ (23 都市 38 公演) で演技を披露する。延べ 20 万人が来場する。(2013. 12. 19~2014. 1. 24)

(6) S4E GYM GALA X-MAS TOUR2014 (オランダ 4 公演・ベルギー 2 公演) に日本の体操として招待を受け演技を披露する。(2014. 12. 11~12. 27)

(7) ロシア新体操 80 周年記念 G A L A (サントペテルベルク・マリンスキー劇場) に世界各国の代表選手が集結する中、男子 (日本だけ) 代表として招集され演技を行う。(2015. 2. 7~2. 17)

(8) タイのテレビ局から青森の魅力として取材を受け放映される。(2016. 6. 2)

(9) リオ五輪フラッグハンドオーバーセレモニー (オリンピック引継式) に出演する。(2016. 8. 22)

(10) UNIVE GYM GALA PRESENTEERT A T O U C H of G O L D 2016 (オランダ) に招待される。(2016. 12. 27~2017. 1. 2)

(11) ベルギー体操連盟主催、ブリュッセル・アントワープで開催される Gymgala2019 に招待される。(2019. 12. 12~12. 17)

<特別活動>

1. CM (コマーシャル)

・カルピスソーダ 2 年連続出演 (2009. 5. 9~10 撮影)

・青森県反射材大作戦 CM 撮り (2014. 9. 30)

青森県環境生活部県民生活文化課の企画、青森博報堂からの要請で夜間事故を防ぐための CM (11 月より放送) に出演する。

・アンミカさんが出演をする「ほけんの窓口」の CM に、新体操部が出演 (2022. 12. 13~14 撮影)

2. TBS 系列連続ドラマ「タンブリング」出演 (2010. 1. 25~毎週土曜 19:56~)

3. 特別公演

①「青森大学男子新体操部」(2013. 7. 18)

国立代々木第二体育館において世界的デザイナー三宅一生氏の発案により、その名も「青森大学男子新体操部」という一夜限りのショーを開催した。皇室から人間国宝の方をはじめ、世界のマスコミ関係者 200 社を含む 3000 人を招待してのイベントで想像を絶するものであった。その演出に DanielEzralow (パリコレやソチ冬季オリンピック開会式演出)、その他、モーショングラフィックは中村勇吾、音楽はオープンリールアンサンブル、ミュージックスーパービジョンは畑中正人、ドキュメンタリーフィルムディレクションは中野裕之と各界で活躍するクリエイターが参加した。

②国宝坂東玉三郎演出の「バラレ」(赤坂アクトシアター) に一ヶ月に及ぶ稽古と公演に出演させる。(2015. 3. 7~3. 15)

4. 映画「FLYING BODIES」(2013. 10. 3)

①全国上映に先駆け本学において映画「FLYING BODIES」(新体操部のドキュメンタリー映画) を上映する。(11 月 30 日~テアトル新宿・12 月 12 日立川シネマシティー・12 月 14 日~テアトル梅田で上映、2014. 1. 2BSフジで放送)

②映画「FLYING BODIES」DVD化(2015. 3. 18)

2014. 11. 23~24 の両日行われた第 1 回こども国際映画祭 in 沖縄(KIFFO) でグランプリを受賞。そのことも機にDVD化され販売、レンタルビデオショップにも置かれることになる。

5. NHK青森と「元気あつふる体操」制作(2014. 3~2021. 3)

平均寿命が全国最下位の青森県。「脱! 短命県」のキャンペーンとしてNHKのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内 40 市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合いを企画。

6. 報道番組・雑誌掲載

2018 (平成 30) 年度

- ・青森放送「ZIP! FRIDAY」情報番組のゲストコメンテーターとして出演する。(2018. 4. 6)
- ・BS11『ザ・チーム 勝利の方程式』2ヶ月間番組取材(4月~5月)
- ・NHK『聖火のキセキ』の番組取材。泉浩アテネ五輪柔道銀メダリストとの対談。(2018. 5. 27~28)
- ・テレ朝『とくもり!』取材。6/16 放送予定。(2018. 6. 4)
- ・NHK『有田Pおもてなす』に本学OBの「BLUE TOKYO」出演に際し、昨年新体操全日本優勝演技を使用。(2018. 6. 9)
- ・BS11『ザ・チーム 勝利の方程式』22:00~2:30 放送。(2018. 6. 15)
- ・NHK総合『聖火のキセキ』19:30~19:57 放送。(2018. 6. 29)
- ・RAB「勝ち飯プロジェクト」の取材で料理研究家なぎさなおこさん、栄養士佐藤由衣さんとともに取材を受ける。(2018. 9. 20、11. 7)

- ・「教育学術新聞」 高等教育の明日われら大学人のコーナーの取材を受ける。
(2018. 10. 2) 平成 30 年 11 月 7 日 (水曜日) 第 2747 号で紹介される。
- ・ B S 1 『聖火のキセキ』 14:00～再放送。(2019. 1. 29)
- ・ 全日本新体操選手権大会優勝インタビュー「S K Y A」の取材を受ける。
(2019. 2. 25)

2019 (令和 1) 年度

- ・ A B Aにてインカレ 18 連覇達成の様子が放送される。(2019. 8. 28)
- ・ 雑誌「a n a n」の絆のテーマのもと取材を受ける。(2019. 9. 29)

2020 (令和 2) 年度

- ・ A B Aにてインカレ 19 連覇達成の様子が放送される。(2020. 10. 28)
- ・ R A Bにてインカレ 19 連覇達成の様子が放送される。(2020. 10. 29)

<演技会>

2018 年度の演技会

第 11 回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 (7/7)、埼玉昌平中学高等学校開校 40 周年記念演技会を行う (9/9)、老人介護施設「はるかぜ」(岩手県滝沢市・9/29)、「B L U E フェスティバル 2018」(9/30)、「山形フェスタ」(10/14)、小林市新体操演技会 (宮崎県・11/10)、大阪昇陽高等学校演技会 (12/15)、第 30 回広島市新体操選手権大会エキジビション (12/23)、ローズプリンセスバレエスクールの発表会 (12/25)、青森市成人式演技披露 (1/13)

2019 年度の演技会

第 12 回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 (7/6)、白石演技会 (8/31)、小林市新体操演技会 (宮崎県・11/9)、第 31 回広島市新体操選手権大会エキジビション (12/23)、大阪昇陽高等学校演技会 (12/28)、O K B 体操発表会 (岐阜・2/15)、ひらかわドリームアリーナ落成式に係る記念アトラクション出演 (3/28 中止)

2020 年度

コロナ禍により行っていない

2021 年度

愛知県武豊町商工会主催による異業種交流会に参加 (12/4～5)

2022 年度

なし

2023 年度

なし